

農地をつなげる、もっと身近に。

妻有のきずな

2019年1月10日発行

No.26

十日町市農業委員会

十日町市 農業委員会だより



スノーデイズファーム株式会社

水沼 真由美 (24)

みずぬま

まゆみ

農業に新たな風を!

昨年の春に大学を卒業し、十日町市に神奈川県から移住してきた女性がいる。それが水沼さんだ。だが、急に来たわけではない。「1ターン留学にいがたイナカレッジ」というインターン制度を利用して、1年間川西地区に住み「じろばた」で地域のお母さんたちと働いたり、農家さんのお手伝いをした経験があつての、移住だった。その頃から、地域の方から「もしまた十日町に来るなら、十日町を未来に繋いでほしい」とお声がかかっていた。

大学では社会福祉を専門に勉強していた。農福連携を実施する農園（社会福祉法人）にも実習に行った経験があり、農園では田植え、稲刈り、さつまいもの栽培などもともにした。

「種まきから収穫まで様々な仕事がある農業で、多様な人を受け入れられるようにしたい。農業と福祉をつなぐ架け橋になれるように頑張りたい」と話す。農業に新たな風を吹き込むに違いない。

photo by StudioHATOYA

年頭のご挨拶

十日町市農業委員会 会長
村山 隆義



厳冬の候、穏やかな年明けを迎え、皆様ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年は、高温多照水不足により、作物に被害が出ました。八月下旬以降の日照不足長雨により作況はやや不良で大変な年だったと思います。

今年は平成最後の年となりました。讓位により五月に改元が予定され、新たな時代に期待したいものです。

昨年より生産者の自主的取組による「需要に応じた生産」品質向上により選ばれる産地を目指し、厳しい



定期総会の様子

産地間競争に生き残っていかなくてはなりません。業務用米等品種の多様化、園芸作物の導入など複合化が求められています。今年より収入保険制度が始まり保障の選択肢が増えました。経営の安定化のためにも期待したいものです。

さて、農業委員会も、関係機関と連携し遊休農地の発生防止・解消、農地利用最適化の推進、農地の利用集積・集約化、高齢化や担い手不足に対応した新規就農・参入の促進など積極的に取り組み、見える農業委員会、行動する農業委員会を目指し活動しているところです。農地利用状況調査により、今後残すべき農地の選択もしていかなくてはなりません。皆様のご理解ご協力いただきまますようお願い申し上げます。

昨冬よりエルニーニョ現象の発生が報じられております。近年気象変動も激しく自然災害が多くなっております。

本年も皆様健康に留意され、災害もなく、穏やかに稔り多き年でありまますようお願いいたします。

全国農業新聞、お試し無料購読

全国の最新農業情報がほしいなら やっぱり**全国農業新聞!**

3ヶ月間
無料お試し購読実施中!

発行:毎週金曜 購読料:1ヶ月700円(年間8,400円)

発行元:全国農業会議所

購読、お試し購読の申込はお近くの農業委員会へ

報告

1

中越地区農業委員会研修会

～十日町市の事例発表～



村山 幸夫

(農業委員)

暑かった今年の夏、長岡市立劇場で農業委員会研修会が開かれました。

全国農業会議所の稲垣事務局長代理の講演があり、三十年七月ですべての農業委員会が新体制となった。そんな中、我々農業委員、推進委員は、今、使われている農地を使えるうちに使える人に引き継いでいくこと。また、農地法の一部改正により、総会の決議を得なくても非農地判定が可能となり農地利用状況調査の件数を減らすことができるようになった。その後農家の意向確認と地域の話し合い活動により農地利用の最適化が進んでいく、といった内容でした。当農業委員会は二十九年七月より新体制となったが、今回の研修会が一年前であれば、安心して仕事が出来たのでは、と思えました。また事例発表では、わが十日町市の古高委員と富井推進委員による耕作放棄地と新規就農者による銀杏栽培を結び付け、約2haの農地の再生につなげることができたという発表を行いました。広い会場でずいぶん緊張なされたことと思います。大変ご苦勞様でした。



十日町市の事例発表の様子

報告

2

とおかまち産発信フェア2018

～産業発信フェアに参加して～



相澤 成一

(農業委員)

今年は、「産業フェスタ」と「地そばまつり」が同時開催となり、とおかまち産発信フェアとして、十月二十日～二十一日の二日間、道の駅クロスステンとキナーレで開催されました。

キナーレ会場では、自慢の味を持つそば屋さんが多数参加されましたので、各お店の味を楽しむことが出来るチャンスとして開店前から長い列で大盛況でした。

昨年の産業フェスタの皆さんがクロスステン会場に移動、準備中にもかかわらず、TOPカード抽選会場には、長蛇の列ができました。

十菓町スイーツは、用意した四百個が早い時間に完売と大人気。出張保健所・無料健康相談などに関心が高く、多くの人が集まり健康チェックを受けていました。大道芸は子ども達に大人気で、私達も楽しいひとときを過ごしました。

新潟県農業会議より応援を頂き農地相談、図書の販売、農業新聞の普及等を行いました。また、柿・ネギ・トマトなどの販売でお客様との会話の中、農地問題や水不足、稲の作柄について情報交換ができて有意義な交流ができたと思えました。



第一回農業委員会現地研修会

～リーダーシップの重要性～



若井君男
(農業委員)

十一月九日、新潟県農業会議主催の第一回農業委員会現地研修会が十日町市で開催された。

遊休農地対策事例という事で銚坂の(株)A・ファーム雪の十日町で今年クボタのeプロジェクト(社会貢献活動)を活用し再生されたソバ畑を視察した。ソバの作付面積は二十haで、その内耕作放棄地再生面積は、今年再生された二haを含め四haとなっている。その後十一月下旬完成予定の製粉・製麺施設、二十九年三月にオープンした農家レストラン「そばの郷Abuzaka」を視察した。

視察後、十日町農協本店で同社の斉木代表、新潟県十日町地域振興局の星野専門普及指導員から取り組みについて説明を受けた。

今後、ソバの販売力を高めていきたいと代表は話されていた。

レストランの近くを通っていると、いつも車が多く駐車して盛況で六次産業化が順調に進んでいると感じる。

話を聞き、何事もリーダーシップをとる人がいる事が大事だと思った。



ソバ畑の視察



製粉・製麺所



斉木代表と星野専門普及指導員

中越協議会研修会

風をとらえて、風に乗れ!
～食、農、地域の将来に向けて～



島田勝広
(農業委員)

魚沼米はブランド米? ブレンド米? 偽装米? 商品開発を手掛けてきた私にとって常に自問自答を繰り返してきた言葉です。野菜の産地化、高品質化、高単価商品を目指し四十年が過ぎました。常に環境の変化を先取りし、他より少しでも早く対応をすることによって儲かる農業につながるかと確信しています。栽培から二十年かけて商品化した雪下人参はブランド商品、その原料で絞った人参ジュースはブレンド商品(ミックスジュース)、産地限定が崩れると商品そのものが偽装品、となってしまうことを常に意識し、妻有舞ブランドにふさわしい商品づくりに今も挑戦しています。商品コンセプトは、価格競争がないということです。中山間の位置づけは村の地理、歴史にはそれぞれの特徴があり、平場とは異なる政策をと今回の講師でありました渡辺好明氏は説明されました。また地域社会の維持発展のためには、①地理、歴史を知る(地域資源)②なんでも自分でやる(地域の寸法)③誇りをもつ(金、やる気、誇り)の村づくりの三原則を掲げておられました。四十年前の某研修会でも聞いたことがある内容かなと思いつながりながらこれからも世の中の動き、事実を理解し、元気な農業を実践したいと思いました。

商品コンセプトは、価格競争がないということです。中山間の位置づけは村の地理、歴史にはそれぞれの特徴があり、平場とは異なる政策をと今回の講師でありました渡辺好明氏は説明されました。また地域社会の維持発展のためには、①地理、歴史を知る(地域資源)②なん



ご講演の様子

新潟県農業委員会大会

～農地を引き継いでゆくために～



佐野 幸男
(農地利用最適化推進委員)

新潟県農業委員会大会が去る十一月二十二日、燕三条地場産業振興センターで県内農業委員及び推進委員が一堂に会し盛大に開催された。「農業委員会組織を巡る情勢と農地利用最適化の推進」と題し全国農業会議所専務理事柚木茂夫様から、大きく三項目に分けて講演がありました。

一、農業・農政を巡る情勢では、担い手への農地集積が全農地の八割が目標であること、底面がコンクリート構造物を作り農作物の栽培をする場合は農地転用に当たらないこと。

二、農業委員会組織の活動強化では、全ての農業委員会が新体制に移行できたこと。農地情報公開システム「全国農地ナビ」が整備され、このシステムを活用し、農業委員・推進委員と地域による「人・農地プラン」の話し合い活動を推進出来ること。

三、「土地と人」を巡る課題と対応方向では、相続未登記農地等の利用の促進を図るため、不明な所有者の探索は法令により一定の範囲（配偶者及び子）に限定することが出来ることなどでした。私たち農業委員・

推進委員の一番の仕事は農地利用の最適化であり、「今使われている農地を、使えるうちに、使える人に引き継いでいく」であります。大会は最後に議案決議のあとガンバロー三唱で閉会しました。



農業者年金のご案内

60歳未満、国民年金第一号被保険者、農業従事日数60日以上なら、誰でも加入できます。詳しくはお近くの農業委員会またはJAへ！



5つの特徴

- ①一定要件を満たす担い手には、保険料を国が一部補助
- ②支払金額を2万～6万7千円の間で自由に決められる
- ③いつでも脱退、加入可
- ④原則65歳から生涯受け取れる。(仮に80歳前に亡くなった場合でも、死亡一時金として遺族に支払われる)
- ⑤積立式だから、自分の払った分が年金となる

亥年うまれの年男からひとこと



農業委員

須藤 英雄

(中条地区)

今年、2月で、還暦の年を迎える。自分が六十歳、これからの将来、人生設計をどうするか、農業情勢を考えると、わが国は主食である米が過剰である。世界全体では、人口増で、食糧不足がみ…よって膨大な森林原野が、伐採され、焼き払われ環境破壊とまで言われている最近、必要な物は、必要な時、必要なだけ栽培、流通させる。決まりきった話ではあるが、やり続けるしかない。一生。後継者の為にも、荒廃農地をなくするためにも、生産量はあまり気にせず。結果は、あとからついてくるものと信じて、日々、精進してゆきたいと思います。これからも農業委員として残された任期をがんばっていかうと思いますので、皆様のご指導、ご鞭撻を、宜しくお願い致します。



農地利用最適化推進委員

庭野 誠一

(十日町地区)

農地利用最適化推進委員になりました庭野といいます。今中山間地農業はとても大変です。耕作放棄地の発生、耕作者の減少。

しかも過疎化が進んでいます。残っている私たちが後継者を育て農地を守らないと農地が荒れてしまいます。

少し前(株)村山土建の人たちと話をする機会がありました。土建さんは八箇地区、美佐島地区で組織的に農業をし、農地を守ってくれています。そのような人達と話し合い協力し合うことも大切なことだと考えています。

おいしいお米が食べられる田んぼはとても大切です。みなさんと話し合い協力し、少しでも長く中山間地の田畑を守りたいと思います。



農地利用最適化推進委員

南雲 市郎

(中里地区)

私の担当する貝野地区は、水稲を中心とした中山間地域でほとんどが兼業農家です。農地の荒廃を防止するため行政からの交付金等の支援はあるものの、少子高齢化により遊休農地化が進み、復旧困難な農地が拡大しているのが現状です。

当地域では利用組合等の生産組織を作らなかったため、自作や作業委託が主流となっていて、担い手の育成や農地の集積化が遅れ、多くの課題が残っています。

推進委員としてまだ未熟なため集落の会合等で問題点を話し合う機会を作ることができませんでした。今後は推進の基礎資料の把握に努め、少しでも前進できればと思っています。

近年、イノシシ被害に毎年悩まされていますが、今年は年男なのであまり愚痴をこぼすことも出来ません。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。農業委員会だより「妻有のきずな第26号」をお届けします。

先日、地元野菜売り場で生産者によく知る名前の方が数名いました。条件の悪い畑でも手間暇かけて栽培した野菜は、やはりおいしく、『人柄は作柄』と思いました。今年は穏やかで作柄も良好な年になることを祈念いたします。【事務局】

農地のお悩み相談は、お近くの農業委員・農地利用最適化推進委員、または農業委員会事務局まで。

十日町市農業委員会事務局

本局(中里) 763-2515(直通) 十日町事務所 757-3286(直通) 川西事務所 768-4951(地域振興課直通)

松代事務所 597-2222(農林建設課直通) 松之山事務所 596-3132(地域振興課直通)

発行：十日町市農業委員会 編集：情報部会 印刷：(株)アートプラザムラヤマ